

## カタクチイワシ資源の高度利用による地域活性化計画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010129">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010129</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## カタクチイワシ資源の高度利用による地域活性化計画

中央水産研究所 利用加工部

### 研究の背景・目的

カタクチイワシのような小型の魚は、漁獲されても市場で値段がつかないために廃棄されることが多々あります。その理由は、小型魚は頭と内臓を取り除く魚体処理に労力とコストがかかるので、加工現場では利用しにくいからです。カタクチイワシの有効利用を進めるために、魚体処理機械の一連の開発研究を行ってきました。

頭を除去するヘッドカッターと、開きにするフィレーマシンを連結し、機械間の魚の搬送を自動的に行うことを目的としています。

### 研究成果

これまで、カタクチイワシのような円筒状で鱗が取れやすい小型魚は搬送中に十分な姿勢が保持ができず、回転して背腹方向が逆向きになるといった問題点があり、ヘッドカッターとフィレーマシンを連結できませんでした。そこで、ヘッドカッター上での魚体の搬送をバーコンベア方式に変更しました(写真2)。バーコンベア方式とは、櫛形の搬送バーにより魚を受け止めさせた状態にして、テーブル上を滑らせるよう押し進めながら搬送させる方法です。

頭部の切除は搬送途中に設置したヘッドカッターで行います。頭部が切除された魚体はそのまま搬送バーによって押し進められ、途中に設置した落とし穴のようなV字溝に達すると、魚体をその腹部側からV字溝に落とし込むことができます(図)。V字溝に落下した魚体を正常な姿勢を保持したままフィレーマシン側に導入することができ、安定した魚体処理が行えます。

### 波及効果

この装置の利点として、①魚体サイズが揃わなくても搬送できる、②小型魚だけでなく全ての魚に対応できる、③装置が単純化され、コストやメンテナンス費用を節約できることがあげられます。このヘッドカッター連動式フィレーマシン(写真1)は、加工場での人件費と時間を節約し、小型魚の利用を進めると期待しています。



写真1. 小型魚用ヘッドカッター連動式フィレーマシン

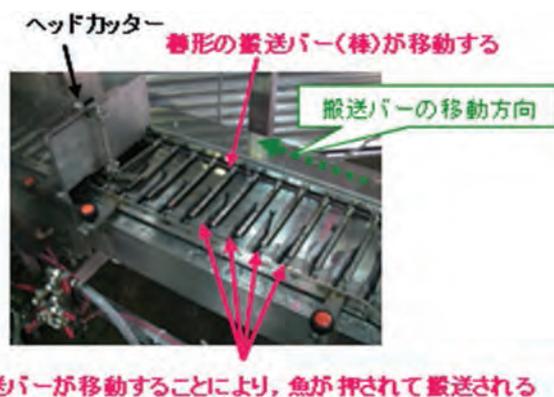


写真2. バーコンベア式の搬送方法

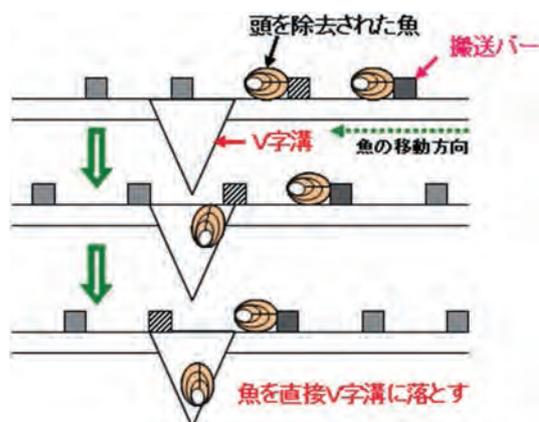


図. フィレーマシンへの連結部分(V字溝)